

第3回二戸市総合計画審議会 議事録(要旨)

1 日 時：平成27年10月1日(木) 午後1時30分～午後3時

2 場 所：二戸市民文化会館

3 出席者(敬称略)

(1) 委 員

阿部 悦子、安保 公一、五日市 真一、遠藤 享、大久保 瞳、小野寺 幸司、久慈 浩、黒澤 克子、柴田 清克、平 裕一、永井 尚子、長葭 常紀、浪岡 正行、成島 英史、馬淵 貴尋、三角 壮一

(2) 市 側

市長 藤原 淳、副市長 戸舘 弘幸、教育長 鳩岡 矩雄
総合政策部長 大沢 治、総務部長 田中舘 淳一、市民生活部長 佐々木 建一、健康福祉部長 阿部 満男、建設整備部長 山下 謙二、浄法寺総合支所長 三浦 幸治、教育部長 樋口 敬造

(3) 事務局

副部長兼政策推進課長 石村 一洋、主査 五日市 寿丸、主任 藤原 悠治

4 会議の概要

1) 開 会

2) 市長あいさつ

今年も残りあと半分となったが、我々の後半戦の大きな事業は総合計画の策定である。

これまで、中学生、高校生の皆さんから話を伺ってきたところであるが、今度6箇所で開催した住民説明会を行った。

いろいろとご意見を伺ったが、基本的には住民に皆さんからのご意見の材料は揃ったということで、これからこの材料を使って日本料理にするのか洋食にするのか中華風にしていくのか、また、それを作った後に市民の皆さんがおいしく食べてくれるのか、こんなものは食べられないというのか、そういう風になっていくと思う。

10年後、20年後、30年後を思い描くとき、人口が減っていく中でも安心して生活しながら、農業をはじめ様々な産業にチャレンジする、あるいはスポーツ、健康づくりに一生懸命チャレンジしていくという風なことを描く訳だが、今日はどういう風な未来、20年後、30年後のキャッチフレーズも含めてどういう風なものを描いていけば市民の皆さんがより分かりやすくそれに向かっていけるのか、また、これを支えるためには、我々の課題であるが、一つ一つの事業をそれに向かって今やっているものを修正かけながらそっちに向かっていかなければならないという一つ一つに積み重ねが一番大切なのかなと考えているところである。

本日は皆さんのご意見をお聞きしながらそれらについてまとめていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

3) 議 事

○会長

皆さんご苦労様です。

第3回になり、ふつつかであるが進行役を務めさせていただく。

本日の会議は概ね3時に終了したい。その後の予定もあるのでよろしくお願ひしたい。

それでは議事に入る。議事(1)住民説明会での意見等について、議事(2)目指すべき将来像及び次期総合計画に対する意見集約については関連があるので、事務局から一括して説明をお願ひする。

- (1) 住民説明会での意見等について
- (2) 目指すべき将来像及び次期総合計画に対する意見集約について
【資料の説明(課長が内容説明)】

○会長

事務局から説明があった。

これまで住民の皆さんからいただいた意見を踏まえて市でまとめた考え方がイメージとして出された。

行政の計画ということで、表現が硬い、分かりにくいということもあると思うので委員の皆様から市の考え方や表現方法などについて積極的に発言をいただければと思う。

【主な質疑・意見】

○委員

とてもまとまっていっぱいなと思う。特に2ページのところで、全体の将来像という箇所です心安心して暮らせる、地域の魅力を生かす、地域に誇りを持つという今までずっとお話したことが文言になっていてとてもいいと思った。

これがベースになって、もうひとつ感じたことはこれを発信していくというような、そういうやり方、外に発信して魅力を伝える、あるいはそれで人口を増やす、もう一つは、二戸の良さはあるが、近隣にもいいものがたくさんあるのでそういう連携みたいなものをこれからあればどうかなと思う。

○課長

ありがとうございました。そのとおりで、人が来ることで賑わいが出来てお金が落ちてという風なことがあるし、外から来る方は二戸にだけ行って終わりという話しではないと思う。一戸、軽米、九戸、青森の近隣も含めて上手に考えながらまとめさせていただく。

○会長

私の台本には、やわらかくて分かりやすい表現ということなので、女性の方々から今日は先にご意見をいただきたい。

○委員

私もすごくまとまっていっぱいやすくていいなと思った。キーワードがすごく絞られていて文章の使い方も悪くはないなど、硬いイメージはない。

私も副会長のお話のように二戸だけでなく近隣市町村との交流がすごく大事だと思う。

○会長

問題が多岐に渡っているので、事務局を褒めないで質問したりきちっと言ったり、色々な角度からご意見をいただきたい。

○委員

役人はあまり褒めない方がいい。例えば、先ほど話した2ページの全体の将来像を分かりやすく書いてあると言っているが、1～3に共通するキーワードは安心、魅力、誇り(生きがい)と書いてあるが、誇りと生きがいはぜんぜん違うと思う。それなのに両方書いてしまって、上から3つ目の地域に誇りを持つの中に生きがいが出て来ない。こういういい加減なことを役人は書くからそういうとこ

ろを良く気をつけていただいた方がいい。

ちなみに誇りについてだが、安心して暮らせるというのは分かる、魅力を生かすも分かる、誇りを持つというのは極めて自分の心の問題なので、安心して暮らせる、大好きな人がいる、二戸はとってもいいところだと思って初めて誇りが出てくる。

これが横並びになるかという気がしている。それは皆さんからチェックしていただければいい。

○課長

確かに安心、魅力、それらを含めたもので誇りが生まれるのではないかというご指摘をいただいた。

そのとおりだと思うので、その辺は将来像の検討を進めるにあたって内部でもう一度話しをさせていただく。

○委員

きれいにまとまったものだと思う。私の手元に23年度から27年度の総合計画後期基本計画がある。今年度までの5年分の計画で、ここに出ている将来像が「活力と安心、歴史文化の薫る拠点都市」である。

今回の資料と比べて、無くなったキーワードが活力である。活力がない。それを市民が自覚している。安心して歴史文化の薫るまちということも分かっている。これは歴史なので変わるわけがない。拠点都市というキーワードも消えてしまった。

ここに、今の二戸市の皆さんが自信を失いかけている元気の良さと、県北の拠点であるという誇り、それが、この5年間で薄らいできたと感じた。

この5年間で大きく変わったのは震災であるし、震災の中でも当市は沿岸に対しても積極的に支援した。バックアップもして県北の都市として力を発揮したはずである。活力も拠点都市という誇りも失わずに行けていると思う。それを控えめに、控えめにキーワードを並べていくとどうしても弱いものになってしまう。

我々が欲しいのは、将来に向ける意気込み、このまちが良くなるんだという核心的な夢、そういうものが欲しい。それに向かって動いていきたいという気持ちが多いはずなのでこういう計画は遠慮することなしに市長らしさをどんと全面に出してぶち上げていただかないと我々の夢を語り難くなってしまう。

○市長

今の後期基本計画との違いをご指摘いただいたが、5.6年前この基本計画を作る段階、それから基本構想とすると合併の時に基本構想を練ったと思う。その時の社会情勢と今と何が違うのかということを考えてみると、人口減少という言葉をこれくらい正面に突きつけて表に出てきたことは今までなかった。

我々にとってみれば、毎年人口減少してきているので、今さら人口減少対策でも何でも無くてもずっと減ってきている。

今、国全体から行くと人口減少、少子高齢化ということがクローズアップされているが、その弊害が何に出てくるかというやはり投資的経費というか、新たにモノを作っていく建設費については抑えなければならないというのは重々分かっている段階である。

先ほどの後期基本計画あるは第2次の計画の中では、ハードものが結構あった。福中、バイパス、消防署、パークゴルフというようなさまざまなものがあって、それをぶち上げながらこういうまちができます、ああいうまちができますという風なことをやってきた。

今の段階で、ハード面をばんと出していくというよりも、ソフトがあってその先にハードがあるという風な物の考え方の方が私はいいと思う。

こういうものを積み重ねていくためにはこういうものが必要であって、ハードは目的ではなく悪までも手段だという風なことでこれから進めていきたいと思っている。

確かに皆さんから伺った段階では橋をかけて欲しい、あそこになぜ橋が必要なのかとなればあの通

りにはお店屋さんが無いということと、新しいまちと古い九戸城などの史跡が残っているところとなぎながら一体的に交流をさせるために、やはり橋が、荷渡と五日町を結ぶために必要である。

後は、要望されているものはカーリング、なぜカーリングを作らなければならないのか、となれば様々な競技の中で冬季種目が伸びてきている。それをある一部の人ではなく広げることにより健康づくりになっていくし、それをどこに作るかによって人の集まるような集積が出てくるというようなことを考えながらいった場合はカーリング場の整備が必要である。

ただ、カーリング場一つだけではだめなので他の体育施設とか傷んでいるところとかこれから修理するところはないのか、そうするとそこに合築みたいにならざるやっつけていかなければならないという風なこともいろいろと出てくるのであって、悪までもソフトの先にそういうものがある。

ハードを先にやりながらあれをやりましょう、これをやりましょうというのは新幹線が来る前のあたりは道路を作ります、施設を作ります、企業誘致が良くなります、ところが新幹線が来てみたら企業誘致は前と変わらなかった。悪までも新幹線を考えてみれば絶対必要な交通機関なんだけどそれによって企業誘致が来ることはないというのを感じているところである。

この一つの弊害とすると駅前のシャッター通りが出来たのはなぜかというのを我々も反省しなければならぬという風を感じている。

例えば、全体的に安心して暮らせるためには、スポーツも無ければだめだ、働く場所も無ければだめだ、それから子育ても安心してできるという風なことをオブラートに包んだというか、ソフトに言ったというか、そういう風な意味で今使っているところである。

確かに、あれをやり、これをやりと氣勢をボンボンと上げていけばいいが、その分実際にお金はない。したがって、最初に言ったのは5年、10年で作ることができなければ30年先をそこに目指しながらやりませんか、一つの方法とすれば九戸城がそうである。今まで九戸城を活用してきたか、市民が行けるようにし、外から来た人が穴牛を周って行けない、こっちから入るためには何が必要か、今法務局の後地をやっているが、裁判所はどうなのか、豆七のところの通りをどうするのかというところをトータル的に考えていかないと、施設を作るのではなくて地域を作るというような意味合いがこれから出てくるような気がする。

岡本小学校のところの歴史民俗資料館を作るのではなく、歴史民俗資料館の周りの天台寺を含めた地域を作っていくましようという風なもの考え方であれば、金がないから言い訳をするわけではないが基本的にはそういう考え方である。

○会長

私はこの審議会の会長2期目で、5年前のことをいろいろと発言で思い出しているが、今の浪岡委員の質問と市長の答弁が核心をついている。これに枝葉をつけた中でもう少しご発言をいただきたい。

旧福岡町だけでなく、浄法寺、金田一合併をしていて同じ二戸市である。それぞれの方でも問題がありましたら遠慮なく発言いただきたい。

○委員

拠点都市という言葉が抜けたとか活力をいう言葉が抜けたというところに何かしら諦めのようなものを、社会情勢が変わったということに対して、何となく誇りを持つという言葉が原案の中に入っていないながら、二戸市がこの地域の中心であるとか、わたし達がこのまちで何かを実現したり夢を持って暮らしていくんだというものの込められた思いが新しい計画の中には無いのかもしれないと感じた。

キャッチフレーズのところだが、私も普段すごく難しいと思うが、今のキャッチフレーズは小さなまちの大きな挑戦ということではないのか。

○課長

今の計画にまちづくりを進めるためのキャッチフレーズはない。今お話があった小さなまちの大きな挑戦は、前小保内市長がニューヨークに行ったあたりからその事業のためにつけたものである。

悪までも、今の計画は将来像として浪岡委員のお話のあった活力と安心云々という形のを10年後の将来像として平成18年に決めたということである。

○委員

個人的に表している言葉だと思うが、案の段階だが、夢を叶える二戸のチカラ、誰が何をするというのが想起できないというか、これが何だったのかというのが10年間探すことではない。10年後に夢を叶える二戸のチカラというのがキャッチフレーズになったときにいったい何だったのかという計画ではだめだと思う。これがあるって何かを実現していくということを想起させる言葉である方がいいし、ちょっとカタカナにしてやわらかくしたような工夫は見えるが、最近こういうのが多くて余計になぜカタカナにしたのか、字面でやわらかさを出そうとしていないかというのが気になったりするのでもっと本質的なところを、10年後にこれを見たときに納得できるような、こういうことをやってきたというのがわかるようなキャッチフレーズを頑張って作るべきだと思う。

○市長

小さなまちの大きな挑戦というのはピタッとくるような感じであるが、全国的にも結構使われている。先般山形で農業でやった、前には東和町が米の減反の反対の時に旗に掲げたのが同じような、ちょっと文言が違ったが使われていた。

やはり自分たちが将来に向かって何かをやっていくんだというようになればピタッとくるが、それではこれが二戸だけのものかとなれば違ったキャッチフレーズになると思う。

自分たちがこれをやっていくんだという風に、目指していく時に喚起になるような、やるんだということにつながるようなキャッチフレーズである方がいいと思うがなかなか思いつかなくて一つよろしく願います。

○委員

たくさんの人にご意見をいただいているいろいろこれから料理すると先ほど言われたが、聞いた相手というのが残った方とこれから出て行こうとする方の話で、実際に出て行った方に聞くということも必要なのかなと思う。

二戸に限らず、田舎から都会に出て行った人はだいたい不便だから嫌だと。そして不便合戦をしている。うちの田舎はこんなだよと。

みんな出て行きたくなくて出て行くのではなくて、嫌で出て行った人の方が多いと思う。そういう人たちの意見もできれば反映させた方がいい。

不便だから嫌だということ、便利にしようかということが見えない。我々鉄道もそうだが、例えば買い物とか、学校とか、不便だから出て行くのであれば便利にしようかという逆説も一言くらい入っていてもいいのかなという感じがする。

読み方としては入っているが、文字として入っていないのでそうかなという意見である。

○会長

住民説明会の意見は出ているがこれは住んでいる人の意見である。今日は他地区からここに勤めている方々の意見を伺いたい。二戸市を斬ってください。そうすることで新たなところに進むということになる。

○委員

前回の会議の時間が無かったところで発言させていただいたが、出て行った人に聞く、これの日本総研のアンケートの話をしたが、東京や仙台に出ている方、どうすれば地元に戻ってくるか、一番印象に残ったのが、やりがいがある仕事があればというのが全体の36%。そして全国、グローバルを相手に仕事をするというのがあれば東京での仕事を給料のレベルを下げてでも来てふるさとで仕事をしたい。

ここに、ヒントが隠されているのではないかと思います。

反対に、二戸が全国、グローバルに展開できるものは何かという風に考えるとやはりうるしとプロ

イラーなのかと思う。

まち・ひと・しごととあるが、二戸市が一番重視しなければならないのは、まず、仕事をこの土地に作る、そこから派生していった便利なまちもあるし、安心できる、裕福になればそれだけハード面もサクセスすることができる。ですから仕事というものをもう少し照準を合わせて議論すればいいものができるのではないかなと思う。

○委員

私も現在 29 歳でもうすぐ 30 歳になるが、二戸に戻ってきたのが 24 歳、私は実家が農家で外に出た時期があったので、実家に帰って農家をやるという名目で帰って来た。

やはり、帰ってくるという目的があると戻る。

外に出るときに不便があるから出て行ったとか、やりたいことがないから外に出て行くというところからだんだん二戸から離れていく人もいるのではないかなと思う。

なので、学びのときに出て行く人を対象に二戸で何をしたいかというような話をできればいいかなと思う。

どういったものを二戸でやりたいのか、どういうために学んで外に出るのかとか、それをどうやったらここで生かせるのかというような話を聞くことによって実現できるような環境、事前の資料にもあった起業者を増やすというところの名目にもなると思う。

私は地場産業で農業が盛んであるというところで答弁したいと思っていた。

農業の中でも新規就農者を増やすというような流れがある。でも現実的に考えるとだんだん農業人口が減ってきて大きい事業体に絞られてくると思う。そういった中で雇用者を増やす、事業主を増やすよりも大きい企業体に勤めるような農業体で雇用者を増やすというような考え方があるのではないかなと思った。

農業会でも次代を担うような方々の話を聞きながら、その人たちを存続させるための対策というものをもろろん考えているところであるが、そういう人たちを対象に、人が増えればどれくらい事業が拡大するのかというようなところを突き詰めることによって雇用もさらに伸びるのではないかなと思う。

○委員

私も農業をやっているが、わたし達の時代、昭和 40 年代は 1 万人くらい農業者がいた時に就農した世代である。その後、ものすごく急激に農家が減少し、非常に寂しさを感じるほどの衰退をしているような状況である。

誇れるのはブロイラーだけで、日本の肉の相場を動かすくらいの産地になっている。岩手県北から青森県南にかけてのブロイラーの産地は日本の肉がどうなるかというほどの産地である。これは全く後継者なり後を継いでいく人は出てくるだろうと思う。

それ以外の農業に関しては、非常に山間地農業なので、中でも大分経営感覚に優れた人たちが残ってきている。やはり会社化していくのだと思う。そこに若干ではあるけれども雇用の場が出てくる。

大きくはない。会社が何十社かができて 5 人なり 10 人の雇用の場ができる。という形で、強い農業というところの、大雑把に強い農業を作りましょうというだけでなくもう少し掘り下げていただきたい。

わたし達は今、交流型農業というもの、観光型の農業というものを始めていて、盛岡だったり遠くから来るわけだが、わたし達の思っている以上にこんなことで喜ぶのかなというところで非常に喜んでくれる。そういうところで二戸にお金を落としてもらう。そういう観光型農業というのを進めていかないと狭い土地で農業で食べていくというのは厳しいのかなと思う。

そうすると、普段接していない人と接しないといけないということで、人に強くならないと駄目である。今までの農業は農協があって、農家と一緒に歩む農協だったのがどんどん離れていった。

もう農家と一緒に歩まない農協になったので、本当であれば、ブランド化だったりを考えてくれば農林課の中に販売をするような場所を何か確保して、ブランド品は二戸市役所の中からの農協経由でない販売形態とかそういうものも考えていってもいいのかなと思う。

一番簡単なのは男子型の企業誘致をするのであるが、それがもう来る見込みが無いということで、これからお金をかけていくのであれば、さきほど市長さんも言ったが、歯止め、お金ばかりかかるということで、ソフト面で農家の経営者を育てる勉強の辺にお金を使っただけならばと思う。

機械を買うのがいいのじゃなくて、逆に補助金をもらわなくても私は経営していきますよというそれだけの経営者を育てる形、勉強の方にお金を使っただけならばと思う。

文化で、誇りというお話が先ほど出たが、もう少し歴史文化の薫るのへの、非常に魅力的なことである。これがうまく発信できていない。いろいろと政実だったり九戸城とかいろいろやっているが、もう少し小学生の段階から歴史のことをきちっと教えて、中学校でも教える、高校でも教える、そうなってくると理解度が全然違うと思う。

私は読書が好きだが、再読で同じ本を何回も読む。小学校の時に呼んだものを中学校でも読む、高校でも読む、年を取ってからも読んだり、その都度に本当はこういうことを言いたかったのかというのが段々に見えてくる。そういうことで、歴史を何となく子どもたちに九戸城すごいよ、政実さんすごいよとか、田中館さんすごいよというようなところを教えるのはいるんだけどもう少し深いところまで教えた方がいいのかなと思う。それが出て行ってからとか、二戸は本当にすごくいいところだったなというところを自分が誇りに思えるものになってくるのかなと思う。文化の方においてもっと教育していただければと思う。

今度国体があるが、前回の国体の時に私も陸上競技部で強化選手になるくらいのレベルのところだった。福中もHのマークをつける。福岡高校と同じ、今の福岡中の野球部も同じHのマークをつけている。それが、ある日突然横文字で英語になってしまって、どうなったのと聞いたら生徒たちが変えたいということだった。私たちは8クラスもあった。そのマークをつけてどこにも福岡とついていないんだけど盛岡の大会に行くと福岡中だとすぐに分かる。

なんで福岡はHなのかという、そういうところを小学校、中学校、高校というあたりできちっと教えていって、こんな人たちがいたよ。

今、大河ドラマで長州藩がクローズアップされているが、それに匹敵するほどの地区なのではないのかなと、秀吉側から見た天下統一ではなくて、政実側から見た全国という見方とか、そういうものを盛り込んでいってもらえると、何か地元の誇りというかが出てくるのかなと思う。

○会長

昭和31年にHのマークは南館選手が1区でトップに立ったときに、アナウンサーが岩手ほこおか高校と言って、それからあれはだめではないか、Fが本当ではないかというところからそうなった。

私は昭和33年に甲子園に行った。そのときにはFの福岡のマークで甲子園に出ている。そのくらいの問題が出たものなのでこれについては後でまたお話ししたい。

今、雇用の問題が出たので、雇用の専門家である委員さんから環境を教えてください。

もう一つは、教育長に今九戸政実とか地元の歴史について学校では、文部省から来たもの以外にきちっとそういうものを教えているのかどうかその辺の環境を教えてください。

○委員

昨日ハローワークで管内の高等学校の先生方と情報交換会があって、これまでどおり管内希望者は非常に少ない、就職希望者が少ないという状況になっている。

何とかハローワークを含めて地元を目を向けてということは、みんなそう思っているが、いかんせん様々な要因があってということでそうになっているのが現状である。

そういうところで私が考えるのは、高校を卒業しての選択肢というのが、進学イコール外に出るという選択、あるいは就職、その就職の選択肢の一つとして管内というくらいでいくと、やはり地元

残る選択肢というのはどんどん狭まっていくのが現状である。

高校卒業後の進学を考えたときに、地域は県立技術専門校と高等看護学校くらいだと思う。そういうところを専門性からいくと県立技術専門校は今後、進学先の一つとして県との協議もあると思うが地元のニーズとあわせて検討する余地はあるのかなと感じる。

全体的にいうと地元の企業の力というのが伸びないと当然そこで働いている人は誇りをもって働けないということになるので、したがって企業がいかに力をつけていくかというのが今後の課題なんだろうと思う。

これは二戸に限ったことではない。

あとは、どうしても自信を持ってない、ある意味謙虚だという見方もあるが、この地域はどうしても引っ込み思案というところもあって、やはり誇りを持って、この地域に自信を持つとか誇りを持つというのは大事なことではあると、そういうことは市民として共感できるようなキャッチフレーズがあるといいなとこれを見て感じた。

この審議会が30年先のというのがあって、何で30年なんだろうなというところを最初感じていたが、先ほどの市長さんの話を聞きながら確かにそういうソフト面を中心にして将来を見据えてということ考えていけばなるほどなあと感じた。

表現的などころではあるが、概ねこういった流れで私はいいと思う。

○教育長

この会の主要なテーマでもあるが、魅力ある地域づくりで教育委員会の観点から申し上げれば親御さんが安心して子どもを預けられる、いい学校だと思っていただけるように評価してもらえような学校づくりをしたいということが大切ではないかなと常日頃考えている。

5年前にこのような会議で阿部悦子さんから、教育長、郷土のこともしっかりやってくださいという話をいただいて、以来、このことは私もしっかりやらなければならないということで意識してやってきた。

委員からご指摘いただいた部分については、恐らく、一般の市民よりは今の小中学生の方がはるかに田中館愛橘博士であれ、郷土の歴史であれ、しっかり理解勉強しているのではないかと立場上自信を持ってしっかり申し上げることができる。

例えば、二戸の先人という小学校の副読本があるが、9人の先人を取り上げてこれを全部の小学生に配布している。これを使って小学校では総合学習の時間とか校外学習とかそういう時間を利用してなかなか限られた時間ではあるが、そういうものに触れさせるように、考えさえるように工夫している。

先日は、春風亭昇太師匠をちょうどこの場所にお招きし、九戸城の魅力についてお話いただいた。中学校2年生全員に聴講させた。残り80席を一般市民用に開放して当日10時から整理券を発行したが、7時から並んだという市民の方がいて、昇太師匠の人気をまざまざと見せつけられた思いであった。

地元紙からも大変うまくまとめてもらって、ありがたく意を強くした。参会者のみなさんからも大変な評価、喜んでいただいてやって良かったなと思っている。

これからも、この点の教育については、限られた時間ではあるが、しっかりやっていきたいと思っている。

なお、今年度、土曜日3回を使って、土曜学習ということで、試みをしてみたいと思っている。これは例えば、九戸城を歩く、あるいは、田中館愛橘博士の話を聞く、大作太鼓を叩いてみるというようなメニューを9つ用意して、中学1.2年が土曜日に気軽に参加してください、中には普段体力不足であろうと、文化部限定のスポーツ教室、ジョイスポーツということで、体育協会の指導員を頼んで運動部はお断り、文化部だけのプログラムを作ってやりたいと思っている。

10月30日に第1回をやるが、希望者なのでどの程度集まるか分からないがこういうこともやって

みたいと思っている。

各種の団体、青年会議所からも協力いただいて、道德の講座もやって幅広くやりたいなと思っている。

もう一点紹介したい。東京学芸大学と今年から連携協定を結んでいろいろと進めているが、いよいよ道德の正式な授業が3年後から始まる。全国のトップレベルの実践家、教科書を書いているような先生が、学芸大学の付属小学校におられるので、昨日お招きして福岡中学校で市内の教員を対象に研修会を行った。その先生が、おっしゃったことに驚いた。何が驚いたかということ生徒がみんな昼休みに歯磨きをしている。東京ではこんなことがまず考えられないということをおっしゃっていた。そして、昼休みに福岡中学校はピアノが何台か校内にある。昇降口に入ってすぐに広い広場があるが、そのピアノの周りに生徒が集まって思い思いに歌を歌っている。ピアノを弾ける生徒がピアノを弾いて、そうすると昼休みに声をかけたわけではないが、この曲だったら一緒に歌おうということで、昨日覗いたら「花は咲く」をやっていた。これはとてもすばらしい雰囲気だなと、まさに舟木一夫の学園広場を彷彿させるようなああいう光景が広がっていた。これも東京からおいでになった先生がびっくりしていた。

最後に、この度、岩手県学校歯科保健優良学校表彰があつて、石切所小学校が岩手県では最優良校として選ばれた。県のレベルでは二戸は全く他の追随を許さない訳だが、全国の表彰でも常連である。今年度も県内の応募校が135校あつたが、石切所がトップに輝いた、市内では、中央小学校、二戸西、御返地小学校も優秀校に入って、最優秀校、優秀校10校のうち、4校が二戸市の小学校だった。また、中学校でも、福岡中学校、浄法寺中学校が応募校52校の中の優秀校に入っている。そういう意味では学校歯科医の先生方、あるいは保護者のみなさんのご協力を得て、二戸は全国レベルだということをおっしゃっていいと思っている。

いいことばかりではない。学校にはいろんな生徒、児童がいるので、いいことばかりではないが、それも含めての学校である。それがまさに集団教育なのでご指摘いただいたことについては、しっかりと意識して学校現場と協力して子どもたちを育てていきたいと思っている。

○久慈会長

あと一つ議題があるので以上で終わらせていただくが、私からもPRさせていただきたい。田中館愛橘博士の銅像を来年の5月21日が命日なので、シビックセンターの前に建立することが決定した。作品を作る方は一戸出身の田村先生であり、製作に入っている。この除幕式等をやりながら田中館博士をこれからますます引き立ててやっていきたいという風にいろんな行事を今組んでいる。ちなみに、実行委員長は私であり、間違いなく進んでいると思うので、よろしくお願ひしたい。それでは、議事の3、二戸市人口ビジョンの素案について事務局から説明をお願いします。

(3) 二戸市人口ビジョン(素案)について

【資料の説明(課長が内容説明)】

○会長

予定された時間を5分ほどオーバーしている。実は今日進行役を仰せつかって一番苦労しているのが人口問題であつて、これをこの時間でやれと言われてもなかなか難しいなあというのが私の悩みでもある。

問題点から、解決方法等は資料4にいろいろ網羅している。そして後2回会議がある。その中で継続してこの問題はやっていかなければならないという風に私は進行役として考えている。

今、日本国中どこでもこの問題に悩んでいるので、今日はこれを勉強したということで、最後に長葎さんから感想だけをお話いただきたい。

○委員

役場の職員の方々に先輩からのエールだと思って聞いて欲しいが、例えば14ページの4番で目指すべき将来展望というのがあるが、この中の(1)で、将来に向けた基本的施策の方向性というのがある。

上から3行目にその中でも特にというのがあって、5行目、首都圏近郊の自治体であれば云々というのが書いてあるが、こういう情けないことは書かない。やっぱり将来展望だから、二戸にはこういういいところもあるからこれを伸ばしていきましょうというそういう書き方にして欲しい。

東京だと金があるからこういうことができるが、うちは金が無いからできませんとは書いていけない、という感じを持った。

○委員

今日説明がなかったところだが、首都圏では有効な政策なんだけれどもというのを謳っているが、今日の資料の2の4ページ、住民の意見の集約というところで、件数だけみると一番多いのが子育てに関する要望である。

子育て重要だけれども二戸では有効でないよねというやり方は、住民の意見を一番多く上がったものを無視とは言わないが、2番目に持ってきている、子どもの数がどんどん減ってきているのに、それはさておき社会減が一番の問題ですと持ってきているのは、なんとなく今回の市民から出された意見の軽視につながるのかなと、もちろん、雇用、社会減が一番の根っこになるのではないかなと思うが、そういうところをもう少し丁寧に説明していかないと、住民の意見を取った意味がないというか、皆さんはそう考えているけれども、市の人たちはそっちよりもこっちが大事なんだという計画を作りましたということになるので、もう少し丁寧に説明をした方がいいと思う。

分析の中に、未婚率、生産人口が14歳から64歳がすごく広い幅になっているが、日本創成会議でも出たのが、20代、30代の働き盛り、子どもを産む世代がこれから減っていくということを警鐘を鳴らしていたのに、14歳から64歳という広い幅で一つのカテゴリーにして分析するのはちょっと乱暴だと思う。30代の子どもを産み育てる世代がどれだけ増えているのか、減っているのかというのを考えたり、未婚率を考えていかないと、若い人がいるのに結婚していない人がいるから子どもが減っているのかもしれないし、もう少し丁寧な分析をするべきだと思う。

○会長

事務局、この提案を踏まえて次回の資料に生かしていただきたい。

そのほかになれば、この人口問題については、ある学者が人口が減った国で国が栄えた試しは無いというくらい大変な問題だと思う。ここで話し合ったからといってどうなるものでもないと思うが、いずれ、二戸市の人口をどうやって増やしていくか、検討をしていかなければならない。

そのことを申し上げて本日の会議を終了させていただきたい。

(4) その他

なし

5) 閉会